#

記入欄

1	計画名称	高感度太陽紫外線分光観測衛星(SOLAR-C)
2	代表者名	清水敏文
3	代表者所属	JAXA宇宙科学研究所
4	関連する主な研究者コミュニティ名(あれば)	太陽研究者連絡会
5	現在の計画のステータス	JAXAシステム要求審査終了
6	第5期中期計画期間中(2028-2033年度)の予想されるステータス	2028年・衛星打ち上げ予定。打ち上げ後2年4ヶ月・ノミナル運用期間。運用延長申請の可能性あり。
7	計画のScience Goal(計画の核心をなす学術的問い)	主要科学達成目標を下記に記す。 1. 太陽高温大気及び太陽風の形成へ導く基礎物理過程を解明する。 2. 太陽プラズマ大気が不安定化し、爆発・噴出を引き起こすエネルギー解放機構を解明する。
8	計画のScientific objectives(計画の研究目的)	太陽彩層(2万度)からコロナ(100-2000万度)にわたる温度領域を隙間なく観測し、これまでと比べ約10倍の空間・時間分解能向上によりダイナミックな太陽プラズマ現象を追跡可能とする高品質な分光撮像データを取得。
9	計画が実施するScience investigations(何をどこまで明らかにしようとするか)	宇宙プラズマが如何に作られ進化するのか、太陽が如何にして地球や太陽系天体など太陽圏の環境に影響を及ぼしているのか、という宇宙科学における命題を探索。
10	計画の実施期間(既存の計画の場合は過去の期間も含む)	2018年 - 2030年
11	計画全体の予算規模(総額、もしくは年度毎の額)	180億円(国内負担分・予備費込)
12	上記の中で期待する国立天文台の資金(総額、もしくは年度毎の額)	約1600万円/年
13	国立天文台に期待する役割	観測装置検討・仕様書作成、海外機器IF調整、CR提供、開発品の組立・試験・性能評価・軌道上運用支援。 (CR: クリーンルーム)
14	資金調達方針(5種類から数字で選択) 1. 既存の大規模学術フロンティア促進事業費, 2. 運営費交付金(既存計画, 新規計画の検討活動・基礎的開発を含む), 3. 新規大規模学術フロンティア促進事業への提案, 4. 国立天文台以外の実施機関(たとえば大学やJAXA宇宙研)予算, 5. 外部資金あるいは競争的資金	2, 4, 5
15	実施期間にわたる計画の簡単な線表(画像を添付)	<p>The Gantt chart displays the following milestones and their durations:</p> <ul style="list-style-type: none"> 概念設計 (Concept Design): CY 2022 予備設計 (Preliminary Design): CY 2022 - 2023 基本設計 (Basic Design): CY 2023 - 2024 詳細設計 (Detailed Design): CY 2024 - 2025 EM製作・試験 (EM Manufacturing/Testing): CY 2025 - 2026 PFM製作・試験 (PFM Manufacturing/Testing): CY 2026 - 2027 システム試験・打上 (System Testing/Commissioning): CY 2027 - 2028 初期・科学運用 (Initial Science Operations): CY 2028 - 2030 延長運用(TBD) (Extended Operations): CY 2030 - 2031

国立天文台が関わる観測装置開発の観点での計画予定